シリーズ 探訪 わが町文化財 その116

宗祇の歌碑（下津野地区）

写真の歌碑は、吉備庁舎の北側約３００ｍに位置する宗祇公園にあり、平成14年（２００２年）に催された宗祇没後５００年祭の記念事業の一環として建てられたものです。

宗祇（１４２１～１５０２年）は、室町時代に活躍した連歌師です。連歌とは、日本の詩歌の歴史の中で、古代以来の和歌から派生し、江戸時代の俳諧に至る過渡期に誕生したものです。特に室町時代から戦国時代にかけて大流行し、連歌を和歌に匹敵する高度な文学に大成させたのが宗祇でした。宗祇の出生については諸説がありますが、下津野地区には生誕地と伝わる屋敷地が残されています。

連歌は、長句（五・七・五）と短句（七・七）を交互に数人で詠み進め、百句まで連ねるのが基本の形で、これを「百韻」と呼んでいます。即興性があるという点ではしりとりゲームに近いものがありますが、好き勝手にふるまうのではなく、式目というルールが存在し、句が式目に適っているか全体を統括するのが宗匠（連歌などの師匠）の役目でした。

宗祇は和歌や古典、茶道や華道についても高い教養を持ち、将軍や朝廷に連歌の指導や古典の講義を行っていました。当時の連歌は、かつて北野天満宮に存在した連歌会所という幕府の機関が中心になって行われており、その指導者は奉行（宗匠）に任命され「花の下」という称号が与えられました。

宗祇公園の歌碑は、北野連歌会所百韻と呼ばれ、１４８８年に宗祇が宗匠に任命され、花の下となって最初に開いた連歌会の冒頭で詠まれたものです。宗祇は最初の発句として「あらぬ名をかけるや山彦ほととぎす」と詠んでいます。宗匠という名誉を受けることは、ほととぎすの山彦のように中身のないものという意味で、身に余る光栄と謙遜の心情を詠んだものと考えられており、実際その後には宗匠の地位を辞退しています。

また、2番目の脇句は政春という人物が詠んでいますが、これは日高地方を中心に大きな勢力を誇っていた湯川政春のことです。連歌会に名を連ねているということは、湯川政春が高い教養を持った文化人であり、宗祇との深い親交があったことを示しています。

●〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 2018-4
●有田川町役場企画調整課 TEL 0737 - 52 - 2111（代）
●E-mail b.kikakuzaisei@town.aridagawa.lg.jp
●ホームページ URL https://www.town.aridagawa.lg.jp